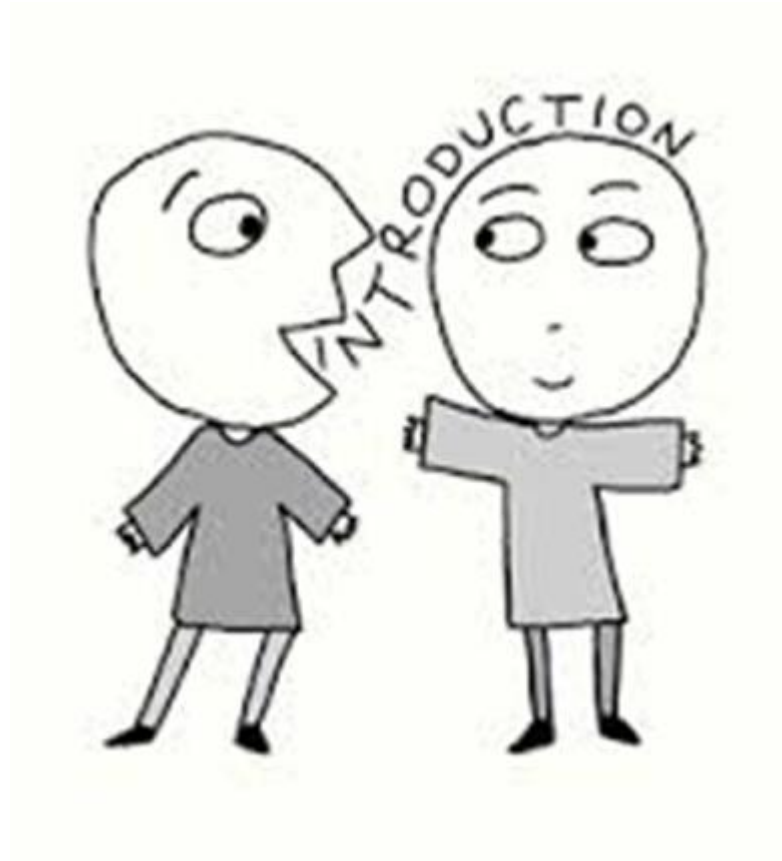


ようこそ!

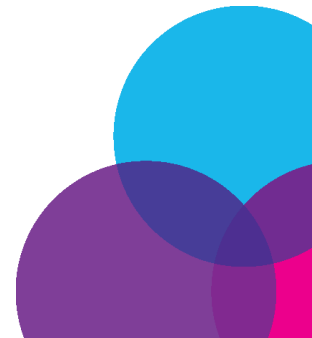


イントロダクション



Getting to know you Bingo!

(ウォーミングアップ、お互いを知るためのビンゴゲーム)



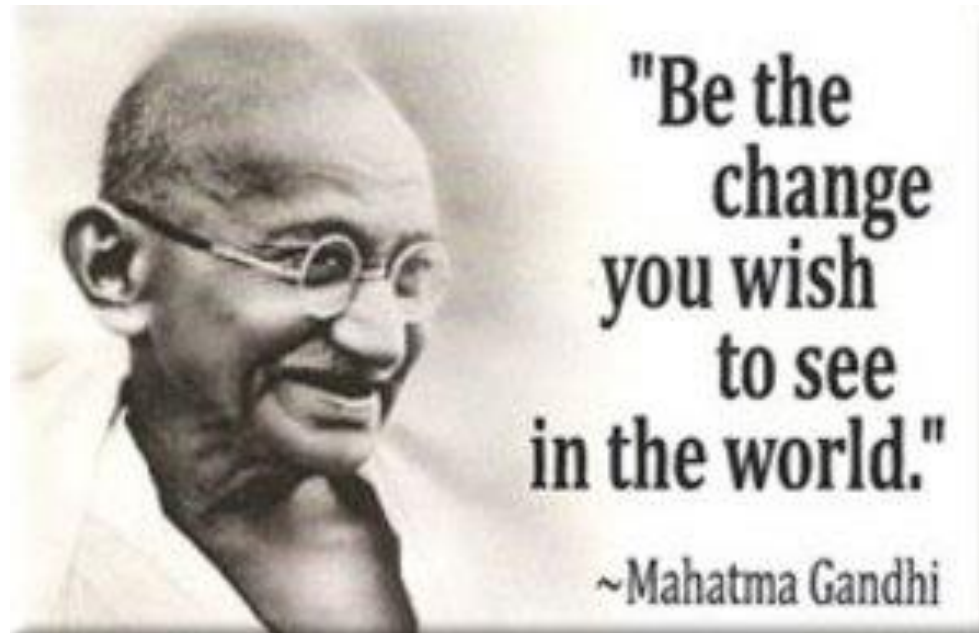
グループの合意

まずは今日どのようにお互いに一緒に過ごしたいかについて話しましょう。そうすることで、分かち合い、学べると感じる事ができるから。



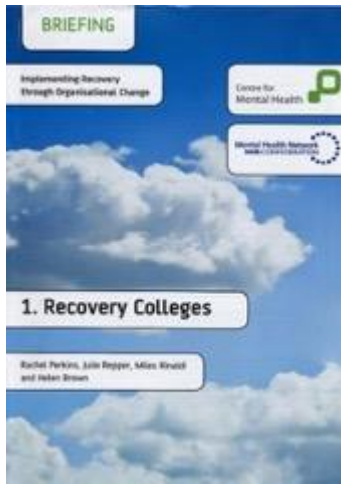


これから数日の間に、あなたが期待していることはなんですか？



なぜリカバリーカレッジを作ったのですか？





リカバリー・カレッジの特徴を定義する

1. メンタルヘルスに関する個人的な経験を持つ人と専門的な経験を持つ人との間のコプロダクション(協働・共同創造)
2. 複数の教室と、人々が自分自身の調査ができるような図書館を備えた物質的な基盤(建物)
3. カレッジの原則に基づいて運営する
4. 誰も排除しないという条件 – 全ての人に開かれている
5. 生徒にはそれぞれ、個別のチューター(もしくはそれに準ずる者)がつき、彼らから情報や助言、ガイダンスが提供される
6. リカバリー・カレッジは、昔ながらのアセスメントや治療の代わりではない
7. リカバリー・カレッジはまた、主流のカレッジ(大学)の代わりでもない
8. カレッジの文化のあらゆる側面に、リカバリーの原則が反映されなければならない

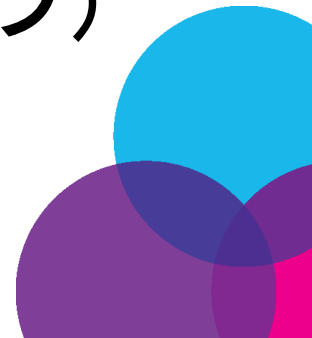


6つの側面 (McGregor, 2014)

- 教育的
- ストレングス・ベース
- パーソン・センタード
- 常に進歩する(プログレッシブ)
- コミュニティ重視
- 色々な人が参加できる(インクルーシブ)
- 協力、提携



CNWL recovery
& wellbeing college
Hope • Control • Opportunity





仕組み変える

結果

力を与える環境

- ・育てる環境を提供すること
- ・選択するための機会を提供すること
- ・力を与え、リカバリー重視の言葉を使用する

権力関係 を変える

今までは異なった関係性を可能にする

- ・一緒に働く(活動する)
- ・ピアとつながる

個人的な成長を促す

- ・共有の/共同創造された学び
- ・知識と実用的なスキルを学び、応用する
- ・ストレングスを基盤にする
- ・生徒が個人的に進歩するよう支援する
- ・成功を祝う
- ・独立した学び
- ・生徒をより広いコミュニティにおける人々や場所に接続する
- ・生徒になる
- ・ゴールに向かって活動する

生徒の変化

- ・より楽観的で自分に自信を持った態度
- ・新たなやり方、もしくはよりポジティブなやり方で自分や他者について理解する
- ・レジリエンスが向上する
- ・健康や幸福の感覚が向上する

生徒の生活における変化

- ・日々の生活
- ・職業上の
- ・社会的な
- ・目標到達
- ・サービスの利用

RECORLLECT フィデリティ評価基準

変更不可能な部分

- 平等であることを尊重する
- 学生に合わせる
- 社会的なつながり
- リカバリーへの深い関与
(コミットメント)
- 学ぶこと
- コプロダクション(協働・共同創造)
- コミュニティ重視

変更可能な部分

- あらゆる人々が利用できる
- コースの内容の独自性
- ストレngthス・ベース
- 場所
- 常に進歩する



1. 平等であることを尊重する

生徒、トレーナー(ピア、臨床家、外部の人)、そしてその他のスタッフの貢献と資源は等しく尊重される。誰一人として、自身の経歴やメンタルヘルスの困難があることによって、異なる判断をされたり、異なる扱いを受けることはない。

現在の発展段階

回答(チェック)

スタッフと学生が、パートナーシップを基盤とした関係性を発展させるためには、時間を要する可能性があるということを、私たちは認識している。カレッジで差別や勢力の不均衡の問題が起こることがあれば、私たちはそれらの問題にのみ対処する。

カレッジにおける全ての関係性が、チャンスやトレーニングなどといったものの平等な分かち合いを示していると、積極的に保証するわけではない。しかし、私たちは次のことを確かに保証する。それは、カレッジがあらゆる人々に対して開かれているということ、また、平等であることを促進するための、そしてスティグマや差別に対抗するための、いくつかの所定の構造が存在しているということだ。

私たちは、他者を一方的に判断せず、歓迎する文化の形成を積極的に促進する。カレッジ内における権力の問題が、常に考慮されることを保証するための活動を行う。

2. 学ぶこと

リカバリー・カレッジは、学生とトレーナーが、自身の経験や知識、スキルを共有することによって、お互いに協力し合い学び合うという成人のための教育アプローチに従う。

現在の発展段階

回答(チェック)

私たちは、成人の学びについてのカレッジのモデルに対するエビデンスを提供することはできない。私たちは、発展を妨げる膨大な要素があること、ピア・トレーナーの養成のための資源が限られていることを知り得る。

私たちは、成人の学びについてのカレッジのモデルを明確に言い表すことができる。トレーナーが教育の原則に従うこと、また、コースがコ・ラーニング(共同の学び)を含むことを保証するために、いくつかのコースが適切な場所に配置されている。

私たちは、カレッジが、成人の学びについての原則に最大限深い関わり(コミットメント)をすると証明することができる。このことは、カレッジの設立趣意書、カリキュラム、そしてコースの教材を見れば明らかである。全てのトレーナーには、成人の学びについての、現行の、公式なもしくは公認のトレーニングが用意される。

3. 学生に合わせる

リカバリー・カレッジは、様々な人々に対応する経験は提供しない。カレッジでは、生徒たちの個別のニーズを積極的に聞き取り、コースの過程でそれらに対応する。コース以外の彼らのニーズについても対応する。

現在の発展段階

回答(チェック)

カレッジが学生たちのための個別の経験を提供する方法を、私たちは実際に提供できていない。トレーナーは、授業中に学生たちの違いに配慮したり対応するほどには十分に支援されたり訓練されたりしていない。

私たちは、学生の個別のニーズへの対応方法をいくつか持っているが、いまだに満たされていないニーズがあることを認識している。

私たちは、コースの過程でもコース以外でも、学生の個別のニーズに対応する沢山の方法を持っている。トレーナーたちは、前もって学生たちのニーズに気づき、コースの内容や展開にどのように適応していくかについての指針を提供できる。



4. リカバリー・カレッジにおけるコプロダクション

生きた経験を持っていつ人々(ピア・トレーナーと学生)は、専門家や特定の分野の熟達者とともに、リカバリー・カレッジのあらゆる側面を設計し、提供する。この過程には、すべてのコースの共同設計(コデザイン)と共同提供(コデリバリー)だけでなく、共同での意思決定も含まれる。

現在の発展段階

回答(チェック)

私たちは、リカバリー・カレッジの設計と運営についての意思決定に、規定通りに生徒とスタッフを含めている。コプロダクションにおける私たちの成功の多くは、コースの共同提供(コデリバリー)に拠っている。私たちは、リカバリー・カレッジの文化、経営におけるヒエラルキー、時間を含め、カレッジにおけるコプロダクションの著しい障害が、現在いくつかあることを認識している。

私たちは、コースを絶えず共同提供(コデリバリー)すると同時に、リカバリー・カレッジの設計と運営についての多くの議論にスタッフと生徒を含めている。しかし、マネージャーが多くの決定を下している状況である。

私たちは、コプロダクションの文化があること、それをカレッジ全体において利用していることを証明する。カレッジのすべてのレベルにおける意思決定の過程で、トレーナーと生徒の声は等しく取り上げられる。それは共同提供(コデリバリー)、カリキュラムの向上、物理的環境の管理と設計などを含む。

5. 社会的なつながり

カレッジの文化と環境の双方が、学生に社交のためのチャンスを提供する。トレーナーは、生徒の社会的なニーズを認識し対応する。E.g. エクササイズやおしゃべりのための休憩の時間を設ける、経験を共有し友好関係を構築する。

現在の発展段階	回答(チェック)
<p>コースの構造と物理的な環境について決めるにあたって、リカバリーカレッジのアジェンダにおける学生の社会的経験は少ない。コースが開催される場所においては、教室以外で、生徒がリラックスしたり、交流できるようなスペースはない。</p>	
<p>リカバリーカレッジは、学生を歓迎する環境であることを保証する。トレーナーたちは、可能な場合には、コースの間に交流のための機会を提供することが奨励されているが、このことは彼らの中心的な役割ではない。コースが開催される場所の一部には、教室の外で生徒たちがリラックスできる設備があるが、これに対して実用的もしくは経済的な面でかなりの障害がある。</p>	
<p>リカバリーカレッジは、学びとリカバリーにおいて、学生たちの融合やつながりが果たす役割について認識している。カレッジは、交流のための様々な設備を提供する。トレーナーたちは、コースの仕組みの中で学生たちがお互いに近い関係を構築できるような機会を統合する支援を受ける。</p>	



6. コミュニティ重視

リカバリーカレッジは、関連するコースを共同創造するために、地域の組織やファーザー・エデュケーション・カレッジ(継続教育のためのカレッジ)と関わりを持っている。カレッジは、情報、価値ある活動において生徒をサポートするためのハンドアウトやイベント、役割、関係性、そして地域における支援を生徒に提供する。

現在の発展段階

回答(チェック)

地域の組織との連携は限られている。地域組織は、カレッジのミーティングやイベントなどには含まれていない。もしくは、地域組織がコースを共同創造したり、スタッフや学生に対し、良い機会を促進するために定期的にカレッジと共同するなどということはない。

私たちは、カレッジのコミュニティサービスや、地域組織との関係性への意識を構築するために、いくつかの活動を行なっていることを保証する。カレッジのいくつかのコースは、地域組織との共同創造によって作られており、学生は、支援のための関連する地域組織について明示されている。

私たちは、カレッジのコースを共同創造するため、そして学生の道筋を促進するために、様々な地域組織と協働している。地域組織との協働がカレッジにおける変革をもたらすことを保証する。

7. リカバリーへの深い関与(コミットメント)

リカバリーカレッジで働く人々は、支援について強い信念と熱意を持って会話をし、学生のリカバリーに献身する。カレッジの中やカレッジでの活動にはポジティブな力があり、それはカレッジの土台となっているリカバリーの原則についての共有された価値に基づいている。

現在の発展段階	回答(チェック)
<p>私たちの組織のポリシーとやり方により、リカバリーカレッジが円滑に運営されることは保証されているが、働く人がリカバリーの原則を促進するうえで、個人的な投資に対する障壁がある。他と何か「違う」もの、そして「意味ある」ものとしてのカレッジを設立するために必要な努力が、未だ残されている。</p>	
<p>私たちは、リカバリーの原則を促進するために、お互いに積極的にやる気を起こしあっている。カレッジのリカバリー重視を向上させるため、絶えず、お互いにコミットメントを共有しているが、進歩(プログレッシブ)へのいくつかの障壁があることも認識している(例えば文化的、経済的)</p>	
<p>私たちは、カレッジにおいて、リカバリーの原則を積極的に促進しており、また、共同で熱心に指導をし、カレッジの学生やスタッフのうちの信念を表現する。カレッジの活動は、例えば卒業式、生徒がトレーナーになるといった実践でリカバリーの原則を表している。</p>	

忠実性の評価基準

変更不可能な部分

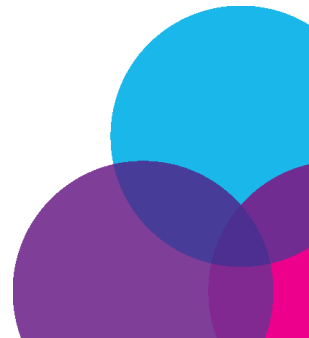
- 平等であることを尊重する
- 生徒に合わせる
- 社会的なつながり
- リカバリーへの深い関与(コミットメント)
- 学ぶこと
- コプロダクション(協働、共同創造)
- コミュニティ重視

変更可能な部分

- あらゆる人々が利用できる
- コースの内容の独自性
- ストレングス・ベース
- 場所
- 常に進歩する



休憩





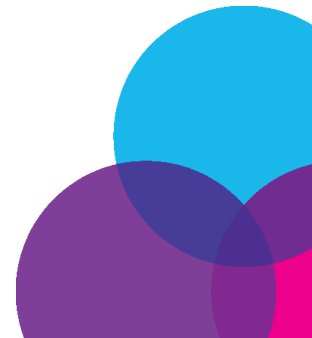
コラボレーション



リカバリー・カレッジ の 核となるもの

最も重要なメッセージ

コプロダクション(協働、共同創造)は、非常に大きな恩恵をもたらす、困難だがやりがいのあるプロセスである。これによりわたしたちは、とりわけ、権力と透明性の課題について考慮するよう求められる。



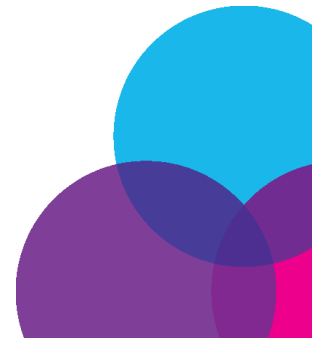
何をすることを目的とするのか ？

コプロダクションの目的のうちの一つは、「コア・エコノミー」を形成することである。これは、コミュニティを結びつける様々な役割や関係性のネットワークのことである。



つまり?

- 「タンゴを踊るには二人必要」
(両者に責任がある、喧嘩両成敗)
- 「共通言語を作る」
- 「どのように他者と関わるかについての考え方」
- 「一人なら早く行くことができるけれど、みんなと一緒になら遠くへ行くことができる」

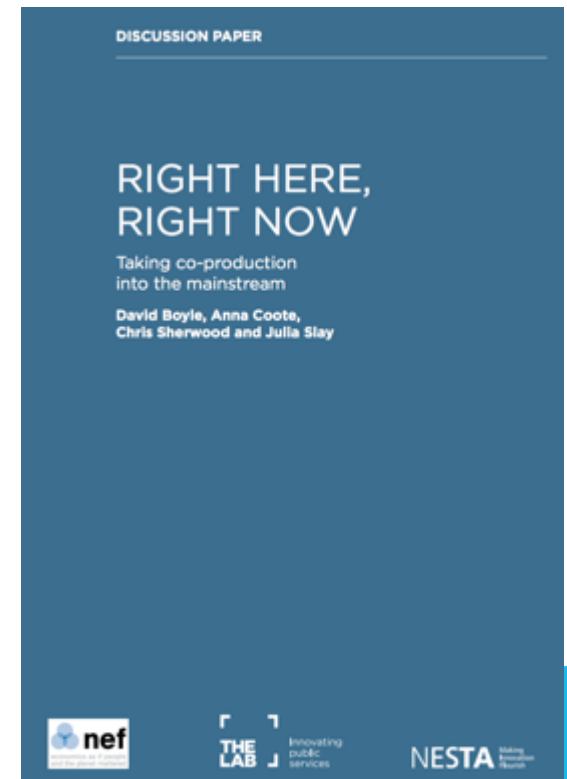


ニュー・エコノミクス (NEF)

- 話し合いや参加についてのことではない – 広い意味を除いて。重要なことは、何かを決定するとき、もっと話し合いをするとか、より多くの人々を含めるとか、そういうことではなく、**公的サービスやボランティアのサービスの提供を促進するために、人々に自分自身が持っているスキルや経験を利用することを奨励することである。**
- 地域サービスボランティアのエリザベス・フードレスによれば、公的サービスの「**範囲を広げること、そして深めること**」である。そうすることによって、公的サービスはもはや専門家や委員を維持(保護)するためのものではなく、**相互支援の多面的ネットワークを形成し利用すること双方において、責任の共有をもたらすものとなる。**

コプロダクションの6つの原則

1. 人々を資源として認識する
2. 人々が今できることをもとに組み立てる
3. 相互関係と相互利益を促進する
4. ピアサポートのネットワークを発展させる
5. 専門家と受益者の間の障壁を壊す
6. 助けるというよりも促進する



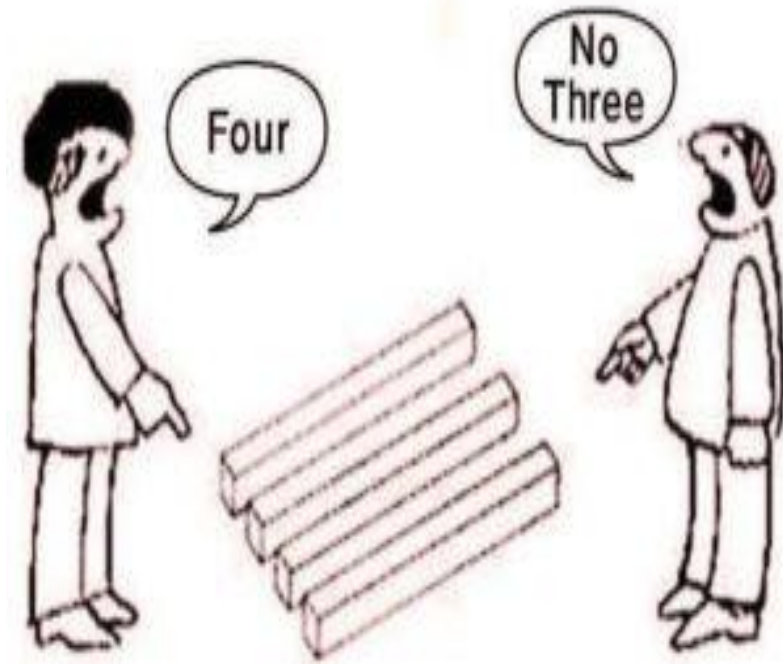
このことはつまり...

1. 人々はサービスの受動的な受け手ではなく、サービスの向上を促進する資源や経験を有している
2. 権力、資源、リスク、そして結果についての考え方に対する変革アプローチ
3. これを実施するために新たな構造を作らなければならない
4. 協力の過程において、自信を持って有意義に活動するためにスタッフもサービスを利用する人々もエンパワーされなければならない

Co Production: an emerging evidence base for adult social care transformation (Scie Research Briefing 31, Needham and Carr, 2009)

- コプロダクションは、「関与、関係、包含 (involvement)」の代わりの言葉ではなく、公的サービスにおける人々の役割のことである。
- コプロダクションは、「私たち」と「彼/彼女たち」-つまり意地の張り合い-ではなくて、私たちのすべての才能を利用し、一緒に活動することである。
- ゴールは利用者主導のサービスではなく、生産的なパートナーシップである。
- コプロダクションは、「サービスの利用者」と「サービスの提供者」だけを含むのではない。ともに活動する人々のスキルのすべて、人々、場所、資源のコミュニティ全体と関係を持つ。
- コプロダクションはコストを削減する方法である。(長期的に見れば、ではあるが)
- コプロダクションは、魔法の杖...
- コプロダクションは「すべて自由」、もしくは「なんでもあり」。

コプロダクションではないもの!



どのように考える？



人工股関節置換手術

これはコプロダクションすることができるか？
そうするべきか？

臨床におけるコプロダクション

- 共同での意思決定
- 共同での安全対策

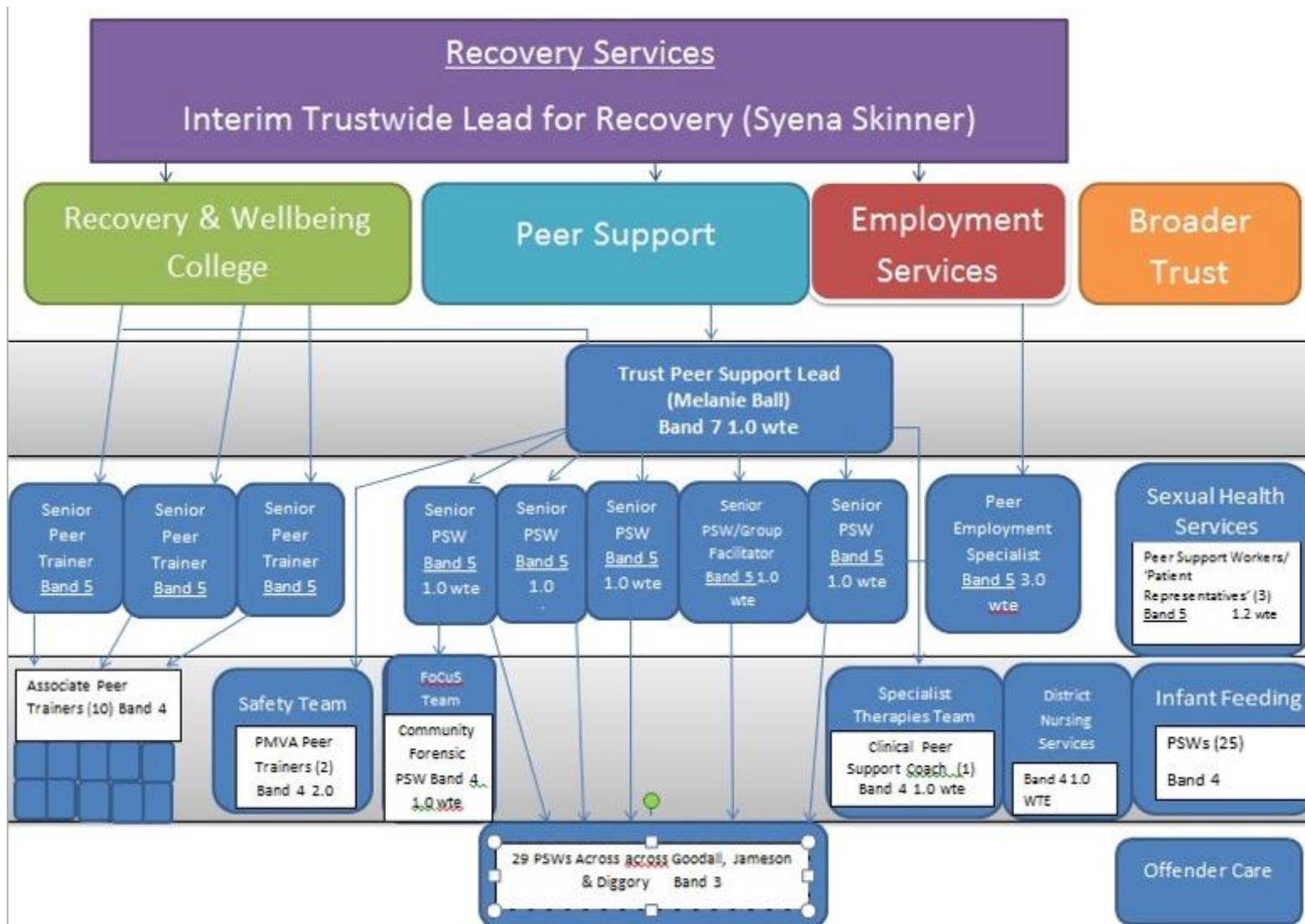


サービスにおけるコプロダクション

- 個人の予算
- ピア サポート ワーカー
- 運営グループ (コミッショニング・グループ)
- サービス評価
- 健康と幸福の促進 / スティグマの撲滅 e.g. Time to Change
- 協働研究
- 協働教育
- タイムバンキング



ピア・サポートは活動におけるコラボレーションである

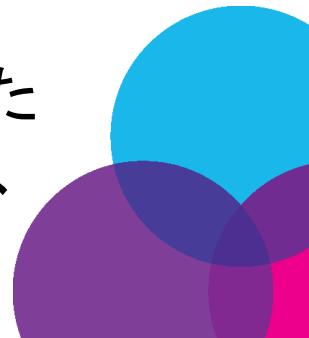


想像してみてください、あなたは...

- 怯えている
- ひとりぼっち
- どのように感じているか説明できない
- 周りの人があなたと普通に接してくれない
- いつかこの状況を切り抜けられると信じることができない
- 自分自身を信じることができない...



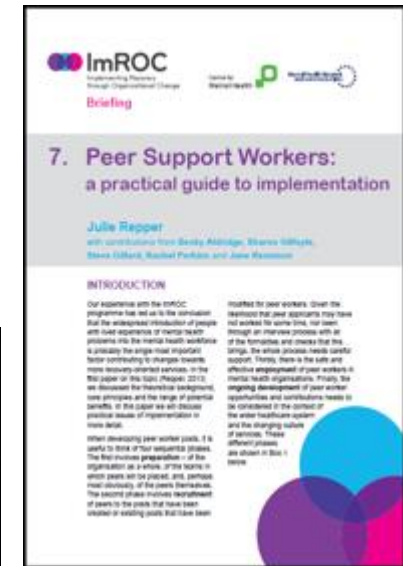
次に、あなたと似たような状況を乗り越えて、生き延びてきた人に出会うことを想像してみてください。実際に、そういった人々は、意味に満ちた、何かに貢献する人生を送っているのだ...



ピア・サポートはどのような違いを生み出すのか？

既存のエビデンスを参照したところ、
ピア・サポート・ワーカー(PSW)を
チームに加えることによって...

- a) 危害を与えない
- b) 支援される人々の生活を向上させる
- c) 文化に影響を与える
- d) コストが削減される
- d) ピアの生活を向上させる



ピア・サポート

ランダム化比較試験(RCT)による研究結果によって、以下のようなピア・サポートの利益が立証されている:

- 臨床におけるアウトカム(利用者のエンゲージメントの向上、症候学、機能、入院率)
- 主観的なアウトカム(希望、コントロール、主体性、エンパワメントのレベルの向上)
- 社会的なアウトカム(友人関係や地域におけるつながりの向上)⁷³.

ピア・サポート・ワーカーによってコストが削減される(PSWを急性期病棟の追加スタッフとして雇用することによって、サービスの利用量が減少し、したがってコストが削減される – 各PSWの給料三回分)

“既存のいかなるメンタルヘルスの専門グループや支援モデルよりも、ピア・ワーカーの方が価値があることを支持する相当に多くのRCTによるエビデンスがある” (Slade et al, 2017)



ImROC


Breaking down walls...

Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare 
NHS Foundation Trust



グループで、大きな紙を一枚広げて、レンガの壁を描いてみてください。それぞれのレンガに、あなたが今後挑戦だと思う、コプロダクションに関係することを書いてみてください。

- 個人的に？そして/もしくは 専門家として？
 - 組織として？





ImROC

Breaking down walls... Part 2

Supported by

Centre for
Mental Health



Nottinghamshire Healthcare
NHS Foundation Trust



私たちの挑戦のリストを
もう一度見直してみてください

私たちはどのようにこれらに取り組んでいるのか？



参考文献

The Health Foundation What is co-production?
(2010)

Nesta People powered health: co-production
catalogue (2012)

Nef/ MIND Co-production in mental health – a
literature review (2013)

Scie Co-production in social care: what it is and
how to do it (2013)

Nef Commissioning for Outcomes and
Coproduction (2014) -

参考動画



Experiences of social care

<https://www.youtube.com/watch?v=rIKCLOWSPco>

Stories of Coproduction

<https://www.youtube.com/watch?v=aKATrzUV2YI>



Online info

www.hcct.org.uk

www.timebanking.org

www.expertpatients.co.uk

www.personcentredcare.health.org

www.coproductionnetwork.com

www.neweconomics.org

www.nsun.org.uk

www.scie.org.uk

